



評 定 書（建築計画等）

申込者 倉沢建設株式会社
代表取締役 倉沢延寿 様

件名 倉沢建設 環境建築モデルビル CLTパネル壁を用いた鉄骨造ラーメン建物の設計

令和4年4月22日付けで評定の申し込みのあった上記の件について、下記のとおり、評定申込事項に係る技術的基準に適合しているものと評定します。

令和4年5月19日



記

1. 評定申込事項

本件は、保有水平耐力計算による倉沢建設（株）ビル（3階建て、建築物の高さ約12.50m、延べ面積約368.67m²、上部構造を鉄骨造とした耐震建築物（建設地：埼玉県川越市小室566-6、用途：事務所）の鉄骨主架構内に配置するCLTパネル（3層3プライ、t=90mm）部分及び周辺架構部分の構造安全性に関する評定である。なお、当該部分以外の部分の構造安全性については評定対象外とする。

2. 区分
新規

3. 評定の内容

(1) 方法

本評定は、特別工法評定委員会（委員長：半貫敏夫）において、申込者から提出された資料に基づき審査を行ったものである。

(2) 内容

提出された構造検討等の内容について、妥当であることを確認した。

鉄骨主架構内に非構造部材であるCLTパネルを設けることとしており、当該CLTパネルが鉄骨主架構に与える力を適切に評価し、当該力を作用させた立体フレーム解析が行われている。その結果、短期地震時に鉄骨主架構部材が許容応力度以下となること、崩壊メカニズム時（層間変形角1/30変形時）に鉄骨主架構にバランスよく塑性ヒンジが形成され、全体崩壊形となること並びに当該CLTパネルの剛性を適切に評価し、各階各方向の剛性率が0.6以上、偏心率が0.15以下となることが確認されている。また、当該CLTパネルが地震時に脱落するおそれがないことの検討が行われている。

なお、当該CLTパネルがない状態において、別途保有水平耐力計算を満足することを前提としている。

4. 備考

本評定は、設計・施工・品質管理等が適正に行われることを前提に、提出された資料に基づいて行われたものであり、個々の工事等の実施過程及び実施結果の適切性は評定の範囲に含まれていない。